



やなぎっ子

さいたま市立片柳小学校

TEL 048-683-3174

FAX 048-683-8971

<http://katayanagi-e.saitama-city.ed.jp/>

「まさか」から「もしかすると」へ ～ 安全で思い出多き夏休みを ～

校長 萩原 哲哉

本日で一学期が終了します。「平成最後の一カ月」として始まった新年度。五月からは新元号「令和」となり、いろいろなことが一気に進んでいった、そんな期間であった思いがします。そのような慌ただしい中でしたが、子どもたちは大きな事故もなく、一学期を終えることができました。これもひとえに、日々子どもたちを慈しんでくださった御家庭・御家族の皆様のおかげであり、また登下校時に子どもたちを見守ってくださった防犯ボランティアをはじめとする、地域の皆様方のおかげであると、心より感謝申し上げます。

7月20日（土）から、夏休みに入ります。「夏休み」の始まりははっきりとしていないようですが、明治時代にはすでに「夏季休業日」という言葉があったそうですので、欧米の学校を参考にして設けられたのではないか、と言われていています。暑さが一番厳しい時期であることも理由の一つでしょう。

脳科学者の茂木健一郎さんは、「夏休みの本質は、ぼんやりすること、ほうけることだと思う。ふだんとは違うことをやって、ぼーっとする。」ことが夏休みの価値であるとおっしゃっています。さらに、昨今の研究で、ぼーっとすることのできる人は「知能が高く、クリエイティブな人である」ということもわかってきたそうですので、私たちも教職員も、できるだけ「ぼーっとして」、脳を鍛えていきたいと思います。

終業式で子どもたちに、「夏休みは『時間を使う練習』をする期間」とであるという話をしました。学校では日課表で決められたとおりに生活をしますが、休み中は、自分で決めて考えていくことが必要になるからです。「やらなければならないこと」「やったほうがよいこと」「やらないほうがよいこと」の三つの柱で例を挙げて説明しました。なによりも「やらなければならないこと」は、「自分の命を守ること」とであると伝えています。夜更かしした翌日の熱中症、自転車の乗り方、火遊び禁止や水辺での遊び、雷への注意等が、これにあたります。

事故のほとんどは「これくらいは～（大丈夫）」
「まさか～（危険はないだろう）」から、起きるものと言われていています。お子様が「もしかすると～」で考え行動し、自分の安全を守っていけるよう、御家庭でも、どうぞ御指導ください。二学期の始業式、子どもたちが全員元気で登校することを、心から願っています。

